

肉用牛の産地維持のために対応策を

質問 市内には、前沢牛・奥州牛・江刺牛のブランド牛がある。もとより、繁殖農家も多く、地域内一貫生産を売りの一つにしている。しかし、現状は高齢化などで、和牛繁殖農家が減少している。子牛の減少はブランド牛の今後に、暗い影を落としている。産地を維持していく対応策をとるべきではないか。

市長 子牛は昨年より20万円も高い60万円台であり、肥育農家は危機的状況にある。これをやわらげ、増頭環境を整える方策を行なっていく。

質問 畜産農家は、規模が大きいほど、多量の稲ワラを必要としている。県外から、購入している農家もある。大規模稲作農家や営農法人組織などの稲ワラが、畜産農家へ渡る仕組みが必要ではないか。



あつし 敦 議員(日本共産党)



新緑の牧野に放たれゆっくと過す(阿原山牧野)

市長 稲作農家では、稲ワラをローラーにするのにコストが高くて、あまりやられていない。畜産農家側からのアプローチがあるといい。

小規模事業者の実態調査を

質問 昨年成立した「小規模企業振興基本法」は、地方自治体に「小企業振興計画」を策定するよう求めているが、市の対応は。

市長 県が中小企業振興条例を制定したばかりであり、県の施策を見極めた。

質問 「計画」の策定にあたっては、個人事業主を含む小規模事業者の実情をつかむ実態調査をすべきである。

市長 約400社を企業訪問し、調査している。また、商工団体や商店街でも、調査活動をしている。

万年の森の残土処理をどうするのか

質問 奥州万年の森にメガソーラーの計画があるが、そこには大量の残土が山積みになっている。工事に邪魔で移す必要があると思うが、あつちの土は何で、どの位の量があるのか。

市長 産業廃棄物最終処分場を造る際に出た土で、12万mある。

質問 その土には、産業廃棄物や有害物質が含まれていないのか。移動するとしたら費用はいくら位かかる見込みなのか。

市長 産業廃棄物が入っていないが、再利用するためには土壌改良が必要になる。新たな保管場所を現在選定中で、保管場所が決まらなければ、費用は算出できない。

質問 残土処理にかかる費用が莫大で、



介護のいらない体を(羽田シルバースポーツ大会)

介護計画は不十分

質問 第6期介護保険計画に、生活支援訪問介護サービスを実施するとあるが、介護報酬の改定で、介護事業者の経営は厳しくなっている。大丈夫なのか。

市長 介護報酬の改定で、実質的には全体で4・48%もの大幅な報酬引き下げとなっている。市として必要な情報提供を行う。

質問 今後、東京でも高齢化が急速に進み、地方への移転により介護施設が満杯になり住民の私たちが入れなくなる心配がある。こうした事態をどのように考えるか。

市長 それまで住んでいた市町村から応分の負担を求めなければならない。



きくち 利美 議員(新世会)